

大好き、大きらい、でも大好き

小 四

私には仲の良い友達があります。その子は明るくて積極的に友達思いのやさしい子です。私が転んでしまったときにも、すぐにとんで来てくれて、「だいじょうぶ、けがしてない。」と、心配して聞いてくれる子です。だから、その友達は、みんなの人気者です。人気者だからいつもたくさんの友達がまわりにいます。私もみんなといっしょに、わいわい楽しく遊んでいることがあります。その仲の良い友達と、二人だけで遊ぶこともありました。

ある日のことです。いつものように私と友達が話していると、他の子が来て私をおしのけて間に入ってきました。その子は私の仲の良い友達と、二人だけになりました。かと思った。その時は、人気者なんだから仕方がないかなと、自分の心に言い聞かせていました。でも、だんだんとその仲の良い友達と他の子が仲良くなっていく様子が伝わってきました。私は一人になってしまったように思えて、とてもさびしい気持ちになりました。家に帰ってもそのことが忘れられず、夜、ふとんの中で赤ちゃんのように声を上げて泣きました。つらくてさびしくて、悲しい気持ちでいっぱいでした。ひとりぼっちになったような気がしたのです。

しばらく考えていましたが、いつまでも暗い気持ちでなやんでいる自分がきらいになりました。

次の日、こわかったけれど勇気を出して友達に聞きました。

「ねえ、私のこときらい。」

と言うと、友達はその言葉を打ち消して、

「何言ってるの、大好きだよ。」

と言ってくれました。私は、おどろきとうれしきで、ゆがんだ笑顔になっていたかもしれません。

次の日、学校に行く友達

「ねえ、いっしょに遊ぼう。」

と、声をかけてくれました。うれしかったのですが、私は小さい声で言いました。

「三人なんですよ。」

「ううん、断ったから二人だけで遊ぼう。」

と言ってくれました。

「えっ、私のためだけに。」

と思い、びっくりしました。そして、とてもうれしくなりました。今度は心からの笑顔になりました。久しぶりに二人で遊べたことがとてもうれしくて楽しかったです。それから毎日のように休み時間になるとすぐ、おしゃべりをしたり、遊んだりしました。仲の良い友達はいつも笑っていて、やさしくておもしろくて、私は前よりもずっと好きになりました。前よりもずっとずつときずくが深まったように思えました。

「ねえねえ、ずっと親友でいようね。」
と、思い切って聞いてみました。すると

「そんなの当たり前だから、ずっと親友ね。」

と答えてくれました。私はとび上がるほどうれしくなりました。

このできごとがあつてから、私の心の中は、いつもふわふわ心になっています。ろうかや校庭、水飲み場でその友達を見かけるだけで元気になれます。私はこれからも友達を大切にしていきたいと思います。仲の良い友達が遠くにいるように思えて、こどく感に落ち入って泣いた日が、何だかばかしく思えました。

それから、二人だけがいいな、自分

だけの友達でいてほしいな、と思ったことについても考え直しました。

あの時、二人の間に入ってきたあの友達だつて、二人だけで遊びたかったにちがいありません。なぜその時に、三人で遊ぶと楽しいよねという声かけができなかったのでしょうか。私だけの友達になつてほしいというのは、自分勝手だということにも気付きました。ふわふわ心にしてくれた、大好きな親友にも「ありがとう」と言いたいです。二人だけの遊びの時間も作ってくれたし、大好きだよと言ってくれたことにも、勇気づけられました。どくせんすることだけが友じょうではないと思ひました。

友達のこと大好き、一人でなやんで

いた自分のことは大きらい。でもいろ
いろなことがわかって、友達の全ての
ことが大好きというところがわかりまし
た。